

令和8年度 東京都立大森高等学校 学校経営計画

(全日制課程)

校長 須黒祥子

I 目指す学校

1 スクール・ミッション

「敬愛・誠実・努力」の校訓のもとに、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備え、知徳体の調和のとれた心身ともに健康な若人の育成を教育目標とし、1年次からの少人数指導や進路ノートを活用した進路指導等の教育活動を通して、人々に愛され、社会に貢献できる生徒を育成します。

2 教育目標

- (1) 歴史と伝統を受け継ぎ、学校生活を通して様々な経験をさせ、自己肯定感や他者と協力する態度を身に付けさせる。
- (2) 豊かな個性と自主・自立の精神を備え、互いの人格を敬い、社会に貢献する力や社会に出た後も学び続けようとする資質・能力を育成する。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力)

- ・ルールやマナーを身に付け、自他を認め、互いに尊重し協力する態度を育成する。
- ・自分自身の考えや意見をもち、相手に的確に伝えることができる能力を育成する。
- ・自ら学び続け、社会に貢献しようとする志を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施)

- ・生徒の学習意欲を喚起するために研究授業による工夫と ICT 機器の活用など授業改善をおこなう。
- ・習熟度別や少人数制授業により基礎基本の定着から将来に必要な学問へと発展させる。
- ・生徒と教員が一体となって学校行事や部活動を活性化させ、学ぶ喜び、向上心、達成感を体得させることで、心身ともに健康で、自己の能力、興味・関心に応じて自ら学ぶ態度を育成する。

(3) アドミッション・ポリシー (求める入学生の姿)

- ・基本的生活習慣の確立を大切にしている生徒
 - ・自己の目標を具体的に定め、その実現のために日々の学校生活を意欲的に送ることができる生徒
 - ・学校内外の活動に積極的に取り組み、コミュニケーション能力を向上させようとする生徒
- 以上の意欲がある生徒の入学を期待する。

II 中期的目標と方策

1 基礎学力の定着と一人一人の進路志望の実現

目標	方策
ア 学習の保障 基礎学力の定着と進路実現につながる学力向上 探究的かつ教科横断的なキャリア教育	① 授業：習熟度別・少人数編成の実現、実験・実習の重視、デジタル機器の活用推進 ② 補習・講習：平常時・調査前・長期休業中の計画的実施、進路実現のための指導方法の工夫 ③ 探究：「社会に貢献できる人間」であることを考え実践する力の育成

イ 指導の一体化 規範意識の醸成と自他の尊重 安心安全で居心地のよい学校づくり	① 生活指導・進路指導と学習指導の一体化と教育相談機能を強化した生徒支援 ② 特別活動を通じた役割意識の醸成と成功体験 ③ モラル意識の育成
ウ 情報化・国際化の推進 デジタルスキル、グローバルスキルの向上 多様性への理解と共生社会の推進	① 一人1台端末の効果的活用の推進 ② 拙くても伝えようと努力する英語活用への取組 ③ 様々な公開事業への参加や日常のHR、生徒会活動等を通じ、いじめや差別根絶への理解を促進
エ 基本的生活習慣の確立、心身の強化と社会資源との連携 校内外の資源との適切な連携構築	① 特別活動、部活動への積極的参加の促進 ② 医療、福祉、SC、YSWなど専門的な人材、組織・機関との連携 ③ SNS等の適正利用指導と躊躇しないSOS発信力の育成 ④ 地域連携による学校の存在感向上

Ⅲ 今年度の取組目標と方策、数値目標

	目標	方策
(1) 教育活動 学校経営全般	ア 生徒自身が興味関心を持てる取組を提示し、学習への意欲をもたせる。卒業後も生涯に渡り考え、行動できる生徒を育てる。	① 文部科学省及び東京都教育委員会による施策等への取組と教育課程との確実な連携を図る。学校の居心地を向上させ不登校を防止する。
	イ 全ての教職員が主体的に学校経営参画意識をもち、それぞれの役割を確実に果たしながら、建設的な改善提案のできる職場風土を醸成する。	② 企画調整会議、教科会、各種委員会の機能強化を図り効果的な校内研修を実施する。主幹教諭による適切な進行管理の下、職責を意識し主体的に職務を遂行する。
	ウ 服務事故・学校事故ゼロの実現	③ 教職員が高い倫理観と公務員としての自覚を持ち、体罰や個人情報紛失等の不適正事象を起こさない職場環境を維持する。常に生徒の安全に配慮した指導を行い、学校事故を防止する。
	エ 生徒の心身の健康保持増進、教育活動に取り組む教職員の適正なライフ・ワーク・バランスを図る。 オ 経営企画室機能を最大限活用し、人財や施設設備等の校内資源を最大限活用しながら、教育環境の向上を図る。	④ Teams, Classi, フォルダなどの活用により業務の効率化を図る。定時退勤や休暇取得週間を設定し教員の超過勤務を削減する。部活動の休養日設定を必須とし、生徒の健康を守り視野を拓げる時間を確保する。 ⑤ 職員室と経営企画室の連携を推進し、清潔で安全な学校施設を維持する。自律経営予算、生徒会や学年積立金等の私費について、適正に管理し活用する。
	・中途退学者数10名以下 ・教職員の年休取得平均20日以上	
	ア 日々の授業を大切にすることで基礎基本の学力の確実な定着を図る。粘り強い指導で生徒の転退学を減少させる。	① 授業規律を保ち、毎回の授業時間中に学びの実感を得させる。「生徒による授業評価」を活用する等、教科会では進度調整だけでなく、効果的な指導法の共有や研修を行う。

<p>(2) 学習指導</p>	<p>イ 知識・技能だけでなく主体的に学びに向かう力を育成し、自ら考えて課題解決に至ることができるよう、思考力・判断力・表現力を鍛える。</p> <p>ウ デジタル機器の適切な活用により、収集した情報について有用性や正誤の判断を自ら行いながら取舍選択して理解を深め、発信ができる力をつける。</p> <p>エ 図書館の活用を促し、知見を広めるとともに、自分の考えの根拠を発信する表現力を育成する。</p> <p>オ 週末課題や外部模試等を活用しながら、自主学習時間の増加に取り組み、生徒が自身の実力を把握することで進路実現につなげる。</p>	<p>② グループ形式の討論・発表・レポート作成等、他者との交流を通じて、多様な価値観に触れ、考える機会を設定する。生徒が自己の変容を記録し振り返りができる工夫をする。</p> <p>③ 課題発出と提出、画像による実験実習の記録と考察等、単純な機器操作にとどまらない機器活用を実践する。</p> <p>④ 読書推進月間を組織的計画的に実施し、生徒が生徒に読書を勧める掲示物やビブリオバトル等の表現の場を設定する。</p> <p>⑤ スタディサプリの活用により、こまめな配信と活用状況把握をすることで、学校外での学習習慣を定着させる。</p>
	<p>・教員相互の授業参観一人学期ごとに2回以上 ・生徒の「学力がついた」と感じる割合60%以上</p>	
<p>(3) 生活指導</p>	<p>ア 時間を守る、整理整頓、マナーやモラルなどの基本的事項への意識を持たせる。大森高校の生徒であることに誇りを持たせる。</p> <p>イ 身だしなみや所作について、教員の指導のみによらず、生徒が考える機会を設定する。</p> <p>ウ 生徒が自らの未熟さと相手の立場とを理解し、適切なコミュニケーションがとれるように考えたり実践したりする場を設ける。</p> <p>エ 時間を意識して行動し、準備をさせる。</p> <p>オ 清掃や整頓に進んで取り組み、居心地のよい校内環境を維持する。</p>	<p>① 生徒、教職員共に挨拶を励行し、教職員が大人として生徒のよきモデルとなる言動を取る。自転車乗車時の交通ルールに関する理解徹底を図り、ヘルメット着用を促進して自他共に生命を守る行動を促す。</p> <p>② HRや行事、生徒会活動等を通じ、身なりを整えることが、学校生活への自分の意識の変容につながることを、生徒に考えさせる機会を作る。</p> <p>③ 特別活動や部活動等、様々な機会をとらえ、人間関係の構築に、適切な距離感や言動が必要であることを学ばせる。特にSNS利用について、適切な在り方の指導が求められる。</p> <p>④ 遅刻欠席の削減、授業規律の維持に取り組む。</p> <p>⑤ HRを中心に、当番だけでなく全員が協力できる利他の意識を育成し行動させる。</p>
	<p>・特別指導年間10件以下 ・遅刻者数1クラス1日2人以下</p>	
<p>(4) 進路指導</p>	<p>ア キャリア教育の観点から「人間と社会」「総合的な探究の時間」と意図的計画的に関連付け、単なる出口指導にとどまらない進路指導を行う。</p> <p>イ 学年進行に応じた計画的な指導を行い、個に応じた丁寧な対応を継続することで、高い進路希望を諦めさせない。安易に転退学の選択をさせない。</p> <p>ウ 進路実現が日々の学習や学校生活と一体化したものであることを意識づける。</p> <p>オ グローバル人材としての基礎力を育成する</p>	<p>① 進路指導部と学年との連携を密にし、迅速に情報と指導計画を共有し目標と成果の点検、改善を行う。「スキルアップ推進校」の取組を活用する。資格取得を推進する。</p> <p>② 「進路の手引き・ノート」が高校段階のキャリアパスポートとなるべく、3年間のポートフォリオ化を図る。</p> <p>③ 各学年で必ず三者面談を実施し、生徒・保護者との認識のずれを防止する。年度当初に進路保護者会を開催し、保護者への進路情報共有の機会をつくる。</p> <p>④ 英検、TGG参加、生徒海外派遣の機会等に</p>

	機会に積極的かつ主体的参加を促進する。	主体的に取り組ませる。
	・ジョブキャンプ・TGG 1学年全員参加	
	・進路決定率90%以上	
(5) 特別活動・部活動・教育相談	ア 教職員は正しく「いじめ」の定義を理解し、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。	① 「生徒指導提要」「いじめ総合対策」等の基本事項を踏まえ、本校の学校安全計画・人権教育の全体計画等を推進する。いじめ防止や生命尊重、SOSの出し方等を授業として実施することで理解促進を図る。
	イ HRや行事を通じ、協力や助け合いの経験を通じ多様な価値観や立場の違いを知り、社会で生きる力を育成する。	② 体育祭・文化祭・修学旅行という大きな柱となる行事において取組目標を明確にした指導を行い、「人社」「探究」との意図的関連付けを図る。
	ウ 防災教育の充実に取り組む。	③ 生徒と教職員が自校の防災対策への意識を持ち、防災訓練の内容充実を図る。自助共助の考えに基づき、自らの生命を守るだけでなく、地域連携や奉仕的活動等の社会に貢献する意識を育成する。
	エ 自己の興味・関心に応じて文化・スポーツを楽しんだり、努力して成果を得る体験をしたりする場を設定し、学校の居心地を高め、心身ともに健康で明るい学校生活にする。	④ 「生涯の健康に関する理解促進事業」等の指定を活用し、性教育も含み生徒の多様なニーズに応じた学習の場を提供する。また、部活動に積極的に所属し活動させ、技術の向上や達成感だけでなく、良好な人間関係の構築と自己有用感の体得の場とする。
	オ 特別支援教育への理解を深め、組織的な教育相談体制を構築する。自立支援チーム継続派遣校として、SCやYSWとの連携により、生徒を支援し転退学の防止を図る。また外国籍生徒の日本語指導の充実を図る。	⑤ 特別支援学校との地域ネットワークを活用して発達特性への適切な対応への理解を深める。教育支援委員会を定期的に開催して生徒情報を共有し、適切な指導につなげる。日本語指導を単位化し、卒業時までJLPTのN2を取得させる。
	・部活動加入率65%以上	
	・教育支援委員会参加率90%以上	
(6) 募集広報活動	ア 学校説明会・見学会だけでなく、中学校訪問や地域交流行事等に積極的に参加し、学校の露出を増やす。	① 募集対策催事は全校態勢で取り組む。部活動体験や町会企画の行事参加だけでなく、自校企画で小・中学生との交流を行う。
	イ 地域に支えられ選ばれる学校となるために、生徒の姿が見える広報活動を意図的に計画する。	② 機会をとらえ教育活動を積極的に公開する。説明会等では、生徒の役割分担を設定する。
	ウ 学校ホームページだけでなく、SNSを活用し、積極的な情報発信を行う。	③ 「都立学校魅力発信事業」による広報媒体と積極的にリンクさせる。随時情報の更新を図る。HP、SNSの活用強化を図る。
	エ 視覚情報の充実した広報媒体を作成する。	④ ポスターやパンフレットの質向上により学校の魅力発信力を高める。
	オ 募集対策、魅力向上のためのプロジェクトチームを組織する。	⑤ 文化・スポーツ等特別推薦等、倍率向上のため、検討の余地を探る。
	・地域交流行事年間3回以上	
	・HP、SNS更新180回以上	